

ギカイだより

GIKAI DAYORI contents

- 決算審査速報……………2~3
- 7月臨時会の概要・
会派合同研修会……………4
- 9月定例会の概要……………5
- 一般質問……………6~9
- 委員会レポート……………10
- 審議結果・防災研修を実施……………11



発見!

わがまちの おすすめスポット

知る人ぞ知る!?
さて、ここはどこでしょう?

こたえは裏表紙をご覧ください。→



令和元年度 決算の審査速報

～皆さんの税金はどう使われたのか～



一般会計

歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	実質収支額
246億6,419万円	242億8,955万円	3億7,464万円	2億4,449万円

特別会計(国民健康保険など9会計)

歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	実質収支額
151億2,519万円	149億8,031万円	1億4,488万円	1億4,478万円

企業会計(収益的収支の状況)

会計	収益	費用	損益
病院事業	59億3,931万円	59億2,925万円	1,006万円

(万円未満を四捨五入)

一般会計実質収支額は2億4,449万円(前年度比約37.97%減)の黒字となりました。

総務費

庁舎管理、財務、選挙、地方振興など市の全般的な管理に要する経費

51億1,015万円

民生費

児童・障がい者・高齢者福祉や生活保護などに要する経費

59億9,007万円

衛生費

健診や予防接種などの健康づくり、塵芥・し尿処理などに要する経費

24億6,487万円

農林水産業費

農業・水産業の振興、地籍調査などに要する経費

4億7,370万円

商工費

商工業の育成、観光振興などに要する経費

3億1,853万円

土木費

道路や橋梁、公園、公営住宅の維持管理や都市計画などに要する経費

12億1,817万円

港湾費

坂出港等の港湾及び漁港の維持管理などに要する経費

5億5,310万円

消防費

消防や風水害等の災害防除並びに災害発生時の活動に要する経費

7億8,428万円

教育費

幼・小・中学校の管理運営や生涯学習・スポーツ、文化財保護などに要する経費

21億3,506万円

特別委員会を設置して決算認定議案を集中審議!!

市議会では、決算審査特別委員会を設置して「予算が適正に使われているのか」「それぞれの予算を使って取り組んだ事業は期待通りの結果となっているのか」を審査します。

閉会中の継続審査として集中的に審査された決算認定議案は、12月定例会にて表決が行われる予定です。



【総務消防委員会関連】

Q 本市に住んでいる外国人向けの日本語教室は精力的に行われているようだが、言語だけでなく、日本の文化やマナーについての教室は開催していないのか。

A 毎週日曜日（第5日曜日を除く）の午後、図書館で「にほんご@坂出」が行っている日本語教室では、やさしい日本語を用いて、日本の風習や習慣についても教えています。

参加者の口コミで広まり、年間約400名もの外国人が受講しています。



【市民建設委員会関連】

Q 老朽危険空き家除却支援事業補助金の申請をしたものの対象とならなかった空き家が、補助金の対象となるガイドラインまで放置されると危険であるが、市の対応は。

A 空き家の管理については、所有者の責務であることが大前提なので、補助対象外となった空き家についても、申請者に今後空き家としてその財産をどう活用していくのかなど、適正な管理をしていただくようお願いしています。

また、今年から、所有者等による空き家の適正な管理を促進するため、市が空家等管理業務を行う事業者の情報を登録し、その情報を所有者等に紹介する坂出市空家等管理事業者登録・紹介制度を実施しています。



【教育民生委員会関連】

Q がん死亡率を減少させるため、がんを早期に見出し、早期に治療することが重要であるが、がん検診受診率向上に向けた取組は。

A 未受診者へ一律に働きかけをするのではなく、まだら受診の方や特定の年代をターゲットとし、はがきにインパクトのある文字で受診を訴えるなど、未受診者への受診勧奨を行っています。今後も受診率向上に向け、受診率の高い他市町の状況を参考にするとともに、未受診者への勧奨を民間委託することも研究しているところです。

決算審査の日程

- 10月 1日(木) 総務消防委員会関連
(総務部・消防)
- 10月 5日(月) 教育民生委員会関連
(健康福祉部・市立病院)
- 10月 6日(火) 教育民生委員会関連
(教育委員会)
- 10月12日(月) 市民建設委員会関連
(市民生活部)
- 10月13日(火) 市民建設委員会関連
(農業委員会・建設経済部)
- 11月13日(金) 総括・まとめ

委員構成

- | | | | | |
|--------|----|----|----|----|
| 【委員長】 | 若杉 | 輝久 | | |
| 【副委員長】 | 植原 | 泰 | | |
| 【委員】 | 山条 | 真嗣 | 鳥飼 | 年幸 |
| | 若谷 | 修治 | 齊藤 | 義明 |
| | 楠井 | 常夫 | 吉田 | 耕一 |
| | 村井 | 孝彦 | 前川 | 昌也 |



7月臨時会の概要

新型コロナウイルス感染症対策について、市民の生活支援、「新しい生活様式」への対応及び地域経済の回復・活性化にかかる事業の実施などに伴う補正予算案を審議するため、7月27日及び28日に臨時会が開かれました。

初日に市長から補正予算案1件が提案され、各常任委員会での審査を経て、原案のとおり可決しました。

総務消防委員会

- ◎キャッシュレス・ポイント還元事業
6,200万円

教育民生委員会

- ◎ひとり親世帯臨時特別給付金
5,353万円
- ◎緊急包括支援事業
850万円
- ◎学校保健特別対策事業
1,800万円
- ◎新生児特別定額給付金(まろっ子給付金)
3,026万円

市民建設委員会

- ◎「新しい生活様式」導入応援補助金
9,000万円
- ◎プレミアム付飲食券事業
6,250万円



令和2年 7月臨時会の審議結果

議員数=19名 表決参加議員数=18名 ※議長は表決には加わりません。

全議員が賛成した
議案(可決)

市長提出議案

予算

令和2年度坂出市一般会計補正予算(案)(第4号)

第1回 会派合同研修会 を開催しました



「今、市議会に何が求められているか？」

議会の活性化や議員の資質向上を図るため、全会派及び無所属議員の共催により、7月21日に堤英敬氏(香川大学法学部教授)を講師に迎え、政務活動費を活用した会派合同研修会を開催しました。

香川大学法学部教授
堤英敬氏



- 地方議会の重要性
- 地方議会の代表性
- 住民の地方議会・議員の見方
- 地方議会の課題の背景
- 住民からの期待に応えるために

9月定例会の概要

9月定例会では、初日に市長から条例一部改正案6件、補正予算案3件、他議案2件、令和元年度の決算認定案11件の計22件が提案され、決算認定を除く11議案について各常任委員会での審査を経て、いずれも原案のとおり可決しました。

また、最終日には人事案件3件及び意見書案1件が追加提案され、いずれも原案のとおり可決しました。
(議案の審議結果は11ページをご覧ください。)



議会運営委員会での意見書案の各会派協議結果

市民の皆様等が持参された陳情(議会に対する要望・希望)のうち、行政機関等への意見書の提出や議会の決議を求めるものについては、議会運営委員会において各会派の意見聴取を行います。このうち全会一致となつたものは、議会運営委員会が提出者となり、意見書案を提出します。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う 地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書

賛成：○ 反対：×

市民グループ 未来の会	新政会	公明党議員会
○	○	○

意見書全文

新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、我が国は、戦後最大の経済危機に直面している。地域経済にも大きな影響が及び、本年度はもとより来年度においても、地方税・地方交付税など一般財源の激減が避け難くなっている。

地方自治体では、医療介護、子育て、地域の防災・減災、雇用の確保など喫緊の財政需要への対応はじめ、長期化する感染症対策にも迫られ、地方財政は巨額の財政不足を生じ、これまでにない厳しい状況に陥ることが予想される。

よって、国においては、令和3年度地方財政対策及び地方税制改正に向け、下記事項を確実に実現されるよう、強く要望する。

記

- 1 地方の安定的な財政運営に必要な地方税・地方交付税などの一般財源総額を確保すること。その際、臨時財政対策債が累積することのないよう、発行額の縮減に努めるとともに、償還財源を確保すること。
- 2 地方交付税については、引き続き財源保障機能と財源調整機能の両機能が適切に発揮できるよう総額を確保すること。
- 3 令和2年度の地方税収が大幅に減収となることが予想されることから、思い切った減収補填措置を講じるとともに、減収補填債の対象となる税目についても、地方消費税を含め弾力的に対応すること。
- 4 税源の偏在性が小さく、税収が安定的な地方税体系の構築に努めるとともに、国税・地方税の政策税制については、積極的な整理合理化を図り、新設・拡充・継続に当たっては、有効性、緊急性を厳格に判断すること。
- 5 とりわけ、固定資産税は、市町村の極めて重要な基幹税であり、制度の根幹に影響する見直しは、土地・家屋・償却資産を問わず、断じて行わないこと。さきの緊急経済対策として講じた特例措置は、臨時・異例の措置としてやむを得ないものであったが、本来国庫補助金などにより対応すべきものである。よって、今回限りの措置とし、期限の到来をもって確実に終了すること。

補正概要

一般会計

議会費

議員行政視察旅費等 △320万円

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、常任委員会及び議会運営委員会の行政視察を実施しないこととしたことにより、減額するもの。

衛生費

地域外来・検査センター整備工事等 3,301万円

ドライブスルー方式のPCR検査センターを設置するための整備工事及び医師等派遣などを委託するもの。

一般質問

村井 孝彦 議員
市民グループ未来の会



施政方針について

Q 変わりゆく現状を分析し、制度・政策の不断の見直しの必要性は感じているが、市民のため厳しい戦いに挑み、積極的に挑戦するため、今後も地域間・都市間競争を行っていくべきと考えるが、市長の考えは。

A 地方自治体の生き残りを賭けた都市間競争は一層の激しさを増す現状の中で、補助金という手法の効果を一律に否定するものではありませんが、「ばらまき」と言われるような過大な補助金合戦による都市間競争を行うのではなく、本市の有するポテンシャルを最大限発揮できるまちづくり施策の推進により、他市町との差別化を図る必要があると考えています。

(市長)

質問の項目

- ・ 防災対策・危機管理について
- ・ 新聞を活用した教育について

人・農地プランの実質化の実現を

Q 人・農地プランは、平成24年に制定され、現在実質化に向けて検討していると聞くが、本市の現状は。

A 本市の人・農地プランの作成状況は、市内を20の地区に分け、市街地及び島しょ部を除いた、市内全域をカバーしたプランを作成しています。

現在、本市においては実質化に向けたアンケート調査の回収を終え、内容を精査しながら地図の作成を行っているところです。地図完成後は、速やかに農業者等の意向や農地中間管理事業の動向等を踏まえ、地域の特性に応じた農地利用の在り方、中心経営体への農地集積の方針等を協議し、人・農地プランの実質化に向けて作成を行っていきたいと考えています。

(建設経済部長)



山条 真嗣 議員
新政会



避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組を

Q 各避難所における3密を避けたスペースや電源・水の確保は重要である。またトイレや冷暖房設備はどうなっているのか。

A 避難所が過密となるのが避けられない場合の避難先として、自主避難場所や、安全が確保できる場合の在宅避難等、分散避難についても様々な機会を通じて呼びかけていきたいと考えています。

また、電源は災害・非常用発電機を整備しており、水の確保については、県の緊急物資の備蓄マニュアルに基づいて備蓄をしています。さらに駅前市民広場の耐震水槽に飲料水用として貯水しています。トイレについては、水洗トイレの使用が困難になった場合を想定し、排せつ物処理袋などの携帯トイレや簡易トイレの整備を進めています。エアコンが設置されていない学校等の体育館を避難所として使用する際の対応として、複数のレンタル業者との間でレンタル機材の提供に関する協定を締結して、冷暖房機器等についても必要に応じて提供を依頼することとしています。

(総務部長)

質問の項目

- ・ 道路整備について
- ・ 学校教育について

障がい福祉の現状は

Q 優先調達推進法のもと、本市での市内障がい者就労施設への発注状況及び発注金額は。

A 本市の物品及び役務等の発注状況の主なもの、公共施設の草花植栽管理委託や印刷業務の委託などがあり、昨年度の調達実績は目標額240万円に対し、実績は225万円でした。そのうち、市内障がい者就労施設等への発注実績は約3万円です。

市内障がい者就労施設等への発注が伸び悩んでいる要因としては、当該施設等への発注可能な役務等が把握されていない現状が背景にあると考えています。

今後とも、障がい者就労施設等への発注に関し、定期的な周知等により、市内事業所をはじめとする障がい者就労施設等の受注機会を拡大し、当該施設等で就労する障がい者、在宅就業障がい者などの自立促進につなげていきたいと考えています。

(健康福祉部長)

Q&A

一般質問

吉田 耕一 議員

新政会



四国港湾ビジョン2040 における港湾の未来像

Q 地域に新たな価値を生み出す港湾という未来像と、坂出ニューポートプランの、港を中心とした街のにぎわい創出を目指す将来像との違いとは何か。また、自然環境の変化に対応する港湾として、どのような災害時にどのような交通機能を確認したいのか。

A にぎわい創出等について、四国港湾ビジョン2040は、港湾機能強化や再配置を進めた理想像を目指すものであり、坂出ニューポートプランは、地域住民の方々の憩いの場や、観光客の交流の場として快適に利用しやすい港づくりを推進するため、異業種間交流・研究開発拠点等の背後産業の高度化・活性化に資する空間の形成を図ることとしており、基本的に相違はないものと考えています。

また、災害時の交通機能の確保については、四国地方整備局によると、南海トラフ地震をはじめ、高潮や豪雨等の自然災害を対象に、海上輸送機能を確認したい考えとのこと。です。

(技監)

新型コロナウイルス感染症
における本市の対応は

Q 新型コロナウイルス感染症の第2波・第3波を想定した今後の経済支援策についての考えは。

A これまで、国や各自治体において様々な経済対策に取り組み、本市においても消費の拡大を図ることで、地域経済の回復と活性化につながる経済支援策を講じてきました。今後については、依然として新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、長期的な影響が懸念される中、国が実施している大規模な経済対策による地域経済への効果を見極め、本市の実情に即した取組が必要であると認識しています。7月には、県と県内の市町が新型コロナウイルス感染症に対応するための令和3年度の地方財政措置等に関する国への共同要望を行いました。今後、税収の減少が見込まれる中、財源確保は極めて重要であり、引き続き機会を捉えながら、国に対しても強く要望していきたいと考えています。

(副市長)

質問の項目
・坂出ニューポートプランについて
・ふるさと納税について



野角 満昭 議員

無所属



PCR検査体制の確立を

Q 集団感染阻止のため、感染の疑いがある人や濃厚接触者に限らず、幅広くPCR検査を実施する検査体制づくりが必要でないか。また、いつでも、どこでも、何度でも、PCR検査を実施できるようにすべきでは。

A 質問の趣旨にある内容の検査については、現在は、公費によるPCR検査の対象外となっています。国においては、PCR検査体制の拡充について、現在、様々な角度から議論がなされているところですので、今後の動向を見守っていききたいと考えています。

(市長)



質問の項目
・新型コロナウイルス感染症に対応する本市の医療体制について
・新型コロナウイルス感染症に係る介護分野への対応について
など



持続化給付金の
申請サポート体制の整備を

Q 申請すべき状況にありながら、手続き上の問題から申請できない事業者が多くいるが、本市での相談窓口の設置やサポート体制の構築は。

A 持続化給付金の申請は、原則電子申請のみとしていることから、自身で電子申請を行うことが困難な方のために、「申請サポート会場」が5月28日から7月31日までの期間において、坂出商工会館内に開設され、相談をいただいた申請者へ積極的に案内していました。

なお、9月からは申請サポート会場が縮小され、県内では高松市の1カ所のみとなっています。本市としては、坂出市新型コロナウイルス感染症緊急経済対策窓口を設置し、国が作成するリーフレット等の配布や内容の説明をするとともに、ホームページなどでも積極的な周知を図っています。今後、本市が実施する施策だけでなく、国や県の施策についても広く周知を行うなど、本市事業者の支援に努めていきます。

(建設経済部長)

一般質問

大藤 匡文 議員
市民グループ未来の会



離島における公共交通手段の確保を

Q 市内路線バスの瀬戸大橋線は、島民にとって唯一の公共交通機関であり、島々を訪れる観光客にとっても重要な移動手段であるので、維持しなければならぬと考え、今後の市の対応は。

A 路線バスの瀬戸大橋線は、本年10月1日より現在の6往復を3往復に減便し、さらに令和3年3月末日をもって路線を廃止することとなっていますが、同路線は、地域住民にとって必要不可欠な生活路線です。
路線の維持については多くの課題もありますが、本市島しょ部が公共交通の空白地帯とならないよう、関係機関と連携しながら、当該バス路線に代わる公共交通機関の確保に向け取り組みを進めます。

(総務部長)



島民用同乗カードの使用条件の見直しを

Q 瀬戸大橋の島民用同乗カードについては、島民や家族の方から、島民が同乗していない場合の使用条件の見直しを求める要望が強く、令和元年10月に3島の自治会長による市長要望も行ったが、その後の進捗状況は。

A 瀬戸大橋の島民用通行カードのうち、島民の方が同乗している場合に限り割引が適用される同乗カードの見直しを求める要望書を受けて以降、本州四国高速道路(株)及び香川県・坂出市の3者による協議を行ってきました。協議の過程において懸案事項はあるものの、長年にわたり島民の皆様の要望であった使用条件の見直しについて、3者が連携し実現に向けて協議していくことを確認したところです。
引き続き、島民の利便性向上のため、合意に向け3者間での協議を進めていきます。

(副市長)

質問の項目
主な質問

- ・新型コロナウイルス感染症について
- ・消防屯所について

若杉 輝久 議員

公明党議員会



組織横断的な支援体制の整備を

Q 重層的支援体制整備事業は関係各課の連携が重要であり、市長のリーダーシップで、この事業に積極的に取り組むべきと考え、市長の見解は。

A 本市では、縦割りの弊害をなくすため、各課間での横の連携を重視しており、特に健康福祉部は、担当課の案内や複合的な課題がある場合は、課をまたいだ連携・協働による対応に努めています。
当面は現体制を維持しつつ、その一方で現在取り組んでいる、生活支援体制整備事業の第二層協議体の各地区での設置が進む中、各地区から様々な課題、及びそれに対応するための地域独自の支え合いのシステムが本格的に始動すると思われる。本市もそれらを支援し、そこで対応できない課題を解決に導くための体制も含め、当該事業を実施する場合の最適な実施体制はどのようなものか研究していきたいと考えています。

(市長)

マイナンバーカードの安全性は

Q 紛失等で個人番号を他人に知られた場合、税情報や戸籍等の個人情報知られてしまうのか。

A マイナンバーカードのICチップには、税や年金情報などのプライバシー性の高い情報は記録されていません。さらに、ICチップ内の情報を確認するには暗証番号が必要で、暗証番号を一定回数間違えると使えなくなります。仮にICチップの情報を不正に読み出そうとした場合には壊れてしまうなど、様々な安全措置が講じられています。

また、マイナンバーカードは利用範囲や収集・保管などが法令で厳しく制限され、マイナンバーを利用する際の厳格な本人確認が義務付けられており、万が一、個人番号が知られてもマイナンバーだけでは手続きができないことから、悪用されることはありません。

このようにマイナンバー制度では、情報漏洩や悪用されないように制度・システムの両面から様々な安全管理対策が講じられています。

(総務部長)



Q&A

一般質問

若谷 修治 議員
市民グループ未来の会



**コロナに負けない
免疫力アップの取組を**

Q コロナに負けない免疫力アップの取組として、

①口に食べ物がある間は飲み物を飲まないことで、唾液により食品を無毒化し発酵力を高める。また、無添加の発酵食品を選ぶなど、腸内を発酵環境にする。

②小魚を頭ごと食べる。野菜は生で食べるより味噌汁などにしてファイトケミカル抗酸化成分いっぱいのスープごと食べるなど、微量栄養素をとる。

③「あいうべ体操」をすることで口呼吸がなくなり、免疫力の無駄づかいが減るなど、一つからでもこれらの取組を学校給食や家庭で実践してはどうか。

A 学校給食の献立は、児童生徒の発達段階に応じて必要な栄養がバランス良く取れるように工夫、作成されています。腸内環境を整えるのに有効といわれている乳製品、発酵食品や食物繊維の摂取、微量栄養素についても考慮し、計画的、積極的に献立の中に取り入れるようにしています。

今後は免疫力をアップするために

必要な、十分な睡眠、適度な運動とともに、バランスの取れた食事を心がけることについて、教育委員会が各家庭に配布している食育啓発資料を通して家庭に啓発していきたいと考えています。

(教育長)

**農業経営収入保険助成金
制度の創設を**

Q 農業者の安定した収入、ひいては安定した生活につながり、あらゆる損害による収入減少が保障の対象となる農業経営収入保険の助成制度を創設してはどうか。

A 農業経営収入保険制度は、農業経営の安定を図り、農業の健全な発展に資することを目的としたものであり、意欲のある農業経営者の取組の促進にもつながると期待しています。ただ、本県では比較的災害が少なく保険加入への意識が低いことから加入率も伸び悩んでいるとお伺いしています。本保険制度については、国費による支援もあることから、本市において保険料の一部を助成することは、現時点では難しいと考えています。

今後については、他市町の動向を注視していきたいと考えています。

(市長)

東原 章 議員
市民グループ未来の会



ため池の安全対策は

Q 生活道路として使用しているため池の堤防に転落防止柵等を取り付ける考えは。

A ため池に転落防止柵等の工作物を設置する場合には、ため池の保全に関する県条例により、あらかじめ知事の許可を受けなければならぬこととなっており、県に確認したところ、「転落防止柵等の基礎設置に伴う掘削が浅い場合には許可は可能だが、掘削が深くなると、堤防を傷める危険が高くなることから許可が難しくなり、ため池ごとの協議が必要である。」とのことでした。

いづれにしても、後を絶たないため池などへの転落事故を防ぐため、ため池の堤防における転落防止柵の設置については、地域の方々の声を聞くとともに、県、ため池管理者、道路管理者、警察、消防など関係機関と協議をする中で検討していきたいと考えています。

(建設経済部長)

**ふるさと納税の
返礼品の充実を**

Q 市内の名所を巡るツアーとして、瀬戸の夕日と島々を巡るクルージングや天狗マラソンへの参加資格など、本市に来てもらう機会を提供できるような返礼品を増やす考えはあるか。

A これまで寄附件数や寄附金額の増加だけでなく、さらなる本市特産品のPR、地元企業の活性化を図るため、寄附者が利用しやすい仕組みづくりや、魅力のある返礼品の提供に努めてきましたが、昨年6月の国の指定制度導入以降、他の自治体においても、社会課題の解決や地域ブランド戦略の一環としてふるさと納税制度を活用するなど、新たな潮流も見られます。

こうしたことから、本年度において、地場産品に加え、市内の名所を巡る体験ツアー等の体験型の返礼品を提供することも検討していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、現状では事業の実現には至っておりません。返礼品の充実については、他市町の事例も参考に本市にふさわしい取組を進めていきます。

(副市長)

質問の
主な項目

・生涯学習・スポーツの充実に
ついて

付託議案
6件

教育民生 委員会

全議案全会一致で可決



PCR検査センターを整備します。

坂出市、宇多津町、坂出市医師会で協議を行い、発熱等の症状があるなど、PCR検査が必要な方が検査を安全に受けるための体制を設け、医療崩壊を防ぐことにより、市民の皆様の命と健康を守るため、PCR検査センター（正式名称：地域外来・検査センター）を整備します。

検査対象者は、発熱等の症状があるなど、かかりつけ医などの医師が検査が必要と判断した人であり、単に本人が希望するだけでは受けられません。



9月定例会の日程

9月 3日	本会議	提案説明
9月 8日	本会議 委員会	議案質疑・委員会付託 決算審査特別委員会の審査
9月 9日	本会議 委員会	一般質問(個人) 決算審査特別委員会
9月10日	本会議 委員会	一般質問(個人) 議会運営委員会
9月11日	委員会	総務消防委員会の審査
9月14日	委員会	教育民生委員会の審査
9月15日	委員会	市民建設委員会の審査
9月23日	議員総会 本会議	委員長報告 委員長報告への質疑・討論・採決 追加議案の提案説明 追加議案への質疑・討論・採決

付託議案
5件

総務消防 委員会

全議案全会一致で可決



避難所に非接触式体温計を
配備します。

ウイズコロナ時代における避難所を安全・安心な場にするため、坂出駅市民広場を除く市内37カ所の指定緊急避難場所に1台ずつ、非接触式体温計を配備します。

Q 各避難所に1台しか配備されないとなると、大勢の人が避難してくることが予想される市立体育館のような広い避難所では体温計が不足するのではないか。

A 今後、県から各自治体に体温計が配付されることに加え、市役所本庁舎にも既に複数台配備しているため、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めながら、適宜対応していきます。

付託議案
2件

市民建設 委員会

議案第23号については採決により可決、
その他は全会一致で可決



法定外公共物の使用料を
設定します。

これまで設定していなかった広範囲に及ぶ公共物の使用に対応した使用料の区分及び額を設定し、公共物使用許可手続きの適正化を図ります。

区分	単位	使用料
宅地	使用面積1平方メートルにつき1年	710円
軌道敷地	長さ1メートルにつき1年	60円
その他工作物	使用面積1平方メートルにつき1年	240円
ゴルフ場またはこれに類するもの	使用面積1平方メートルにつき1年	14円

※下線部分が今回の改正



市長提出議案

議案第23号 坂出市公共物管理条例の一部を改正する条例制定について

原案可決に **賛成**

植原 泰、寒川佳枝、丸岡豊和、山条真嗣、脇 芳美、東原 章、鳥飼年幸、若谷修治、齊藤義明、若杉輝久、茨 智仁、楠井常夫、吉田耕一、村井孝彦、大藤匡文、前川昌也、大前寛乗

原案可決に **反対**

野角満昭

市長提出議案

全議員が賛成した議案
(可決・継続審査・同意)

予 算	令和2年度坂出市一般会計補正予算(案)(第5号)など	3件
条 例	坂出市選挙公報発行条例の一部を改正する条例制定についてなど	5件
決 算	令和元年度坂出市一般会計決算認定についてなど	11件
その他	工事請負契約の変更についてなど 坂出市教育委員会委員の任命についてなど	2件 3件

委員会提出議案

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書について

議案内容等の詳細は、
坂出市議会ホームページ
【議案内容等・審議結果】を
ご覧ください。

9月定例会で同意した人事案件【敬称略】

◎坂出市教育委員会委員
山地 誠治

◎坂出市農業委員会委員
石井 淑雄

◎人権擁護委員候補者
三木 友見



**防災研修を
実施しました。**



9月定例会最終日に防災研修を実施しました。
今年度は、本市危機監理専門官の笠井武志氏を講師に迎え、

- ① 感染を考慮した避難
- ② 災害時の効果的な情報処理
- ③ 防災・危機管理の人材育成

についての講演をお聞きしました。コロナ禍における避難の注意点など、感染症拡大防止にも留意した、市民の安全確保のための防災対応の重要性を学び、防災に対する思いを新たにしました。



危機監理専門官
笠井 武志 氏



1 岩黒島

瀬戸大橋の橋脚が建つ島、岩黒島。マリナーの車窓から巨大なクマゼミの壁画が見られるのをご存じでしょうか。岩黒中学校体育館の壁一面に描かれています。

かつて岩黒島には鳴き声で住民同士の会話が聞き取れないほどクマゼミが多く生息しており、「クマゼミの島」と呼ばれていました。1968年に岩黒中学に赴任した田中俊彦教諭(当時)がクマゼミの研究を提案。生徒たちと3年がかりで取り組み、第14回日本学生科学賞中学部門で第1位を受賞しました。その後同校の島本寿次教諭(同)が研究課程を「クマゼミの島」として出版しました。

同書には研究の困難さとともに、生徒間の感情のもつれと友情、新発見に肩をたたいて喜び合う姿等が生き生きと描かれています。興味のある方は市立大橋記念図書館でぜひお読みください。

その後、瀬戸大橋架橋工事に伴いクマゼミは減少。当時の記憶は薄れていました。昨年度、島の先輩たちの足跡を残そうと「巨大クマゼミ壁画プロジェクト」が発足。同中学校唯一の在學生と島民が協力して昨年10月に完成しました。大空に向かって今にも飛び出しそうな成虫とかわいく描かれた幼虫をぜひご覧ください。 ※同島へはバスをご利用ください。自家用車では入れません。



2 新開の常夜燈

元町にある児童公園から少し東に行った細い路地を進むと突然民家の一角に2メートルを超える大きな石灯籠が現れます。坂出にはこうした石灯籠がいくつか現在も残っていますが、ここに立っているのは新開の常夜燈で弘化3年(1846)年坂出浦の船の出入口のために建てられた常夜燈で、港の目印とした航海安全を願う金毘羅燈籠です。



江戸時代享保の頃、坂出の港(坂出浦)に船の出入りが次第に多くなり、林田浦にあった高松藩の船番役所は享保17年に西洲加八軒家に移され、港は海岸に沿って発展し、東へ伸びてきてその東端がここでよい船着場でした。そこで常夜燈を建てて金毘羅宮に捧げて海上の安全を祈り、併せて港の目印としました。その後坂出墾田事業によって海岸線は沖に伸びましたが、町内の常夜燈として有志の手により石灯籠として残され今日に至っています。

参考資料:文化史さかいでシリーズIIさかいで石物語、現地の碑

3 城山長者の壁画

川津町を通る四国横断自動車道ののり面に、川津に古くから伝わる『城山(きやま)長者』の壁画があります。その昔、城山に住む長者が足の不自由な美しい娘(乙姫)のために、立派な車と車道(くるまみち)を作り、四季折々の美しい景色を毎日見せたという場面を地元の方が描いたものです。

平成4年の自動車道開通を記念して壁画になりました。



編集後記

新型コロナウイルス感染症により、市内のイベント、行事は中止・延期・縮小を余儀なくされました。当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなり、今までの当たり前に感謝をしたり、見つめ直す機会になりました。

まだまだ先の見通しは立ちませんが、いつか来る当たり前、新しい日常に備え、十分に準備ができるとプラスに捉えたいと思います。

(東原)

広報広聴委員会 委員長……植原 泰 副委員長……丸岡豊和
委員……寒川佳枝 東原 章 若谷修治
齊藤義明 野角満昭 若杉輝久

次回開催は…
12月定例会を12月上旬
に、開催予定です。

